

◆経営・組織論

1. 経営理念：

企業の（ ）や（ ）を明確にする。

2. BCP (Business Continuity Plan / 事業継続計画)：

災害や緊急事態が発生した際に、企業が（ ）に絞り、その業務の実施手順を整備する。

3. HRTech (Human Resources Technology)：

（ ）に AI や IoT などのテクノロジーを使う。

4. アダプティブラーニング (Adaptive Learning)：

学習者一人一人の学習進行度や（ ）に応じて、最適なコンテンツを提供する。

5. デジタルトランスフォーメーション (DX : Digital Transformation)：

IT を活用し、戦略的に（ ）の刷新（新しく良いものに変える）や、新たな（ ）を生み出す。

6. IPO (Initial Public Offering)：

（ ）を目的に、企業の未公開の（ ）を新たに公開すること。

7. 第4次産業革命 (The Fourth Industrial Revolution)：

インターネットや AI を活用して、サービスの（ ）と質の向上を図る。

8. CTO (Chief Technology Officer)：

（ ）に直接の責任を持つ役職。

◆業務分析・データ利活用

1. ABC分析 (ABC Analysis)：

分析対象（商品、顧客、業務など）を重要度や貢献度に応じて、（ ）のグループ（ランク）に分けて分析する。

2. A/Bテスト (A/B Test)：

2つの異なるバージョン（A案とB案）を比較し、どちらがより効果的かを検証する手法。

3. バレート図 (Pareto Chart)：

データを重要度の高い順に並べ、問題や要因の優先順位を視覚的に把握するためのグラフ。
（ ）と（ ）を使う。

4. バブルチャート (Bubble Chart)：

3つの変数（要素）を視覚的に表現する。X軸、Y軸、（ ）で3つの値を同時に表す。

5. 自然言語処理 (Natural Language Processing: NLP)：

自然言語処理とは、コンピュータが（ ）、（ ）、（ ）などを通じて、人間の言葉を理解・生成・活用する技術です。

6. 主成分分析 (Principal Component Analysis: PCA)：

多くの項目（変数）から成るデータの中から（ ）を抜き出し、データを簡潔にまとめる方法。

7. データサイエンティスト (Data Scientist)：

（ ）などの手法を使ってビッグデータを解析し、ビジネスに活用するための新たな知見を得る専門家。

8. 回帰分析 (Regression Analysis)：

例えば「アイスクリームの売上」と「気温」のように、2つのデータの間関係を調べ、1つの値からもう1つの値を予測する方法。